

14. 泌尿器、生殖器の疾患 (更年期障害を含む)

文献

Koike K, Ohno S, Takahashi N, et al. Efficacy of the herbal medicine Unkei-to as an adjunctive treatment to hormone replacement therapy for postmenopausal women with depressive symptoms. *Clinical Neuropharmacology* 2004; 27: 157-62. CENTRAL ID: CN-00490860, Pubmed ID: 15319700

1. 目的

抑うつを伴う更年期症候群に対する温経湯の有効性を評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (cross over) (RCT- cross over)

3. セッティング

1 大学病院、1 診療所

4. 参加者

ホルモン補充療法で寛解の得られない、抑鬱症状を伴う更年期症候群の女性 24 名

5. 介入

Arm 1: 6ヶ月間ツムラ 温経湯エキス顆粒 7.5g/日- 1ヶ月 washout- 6ヶ月間 ツムラ当帰芍薬散エキス顆粒 7.5g/日 12名

Arm 2: 6ヶ月間ツムラ当帰芍薬散エキス顆粒 7.5g/日- 1ヶ月 washout- 6ヶ月間 ツムラ温経湯エキス顆粒 7.5g/日 12名

Arm 1、2ともにホルモン補充療法は継続

6. 主なアウトカム評価項目

Self-Rating Depression Scale (ZSDS)、State-Trait Anxiety Inventory (STAI-1,2)

7. 主な結果

温経湯の投与3ヶ月でZSDS、STAI-1,2の有意な改善を認め、6ヶ月投与まで効果は持続した。また温経湯の投与は当帰芍薬散投与と比較して、3ヶ月後、6ヶ月後いずれにおいても、ZSDS、STAI-1,2の有意な改善が得られた。

8. 結論

ホルモン補充療法で十分な効果が得られない、抑鬱症状を伴う更年期症候群に対して、その補助療法として温経湯は有効である。その効果は当帰芍薬散より優れている。

9. 漢方的考察

なし

10. 論文中の安全性評価

両群ともに副作用を認めなかった。

11. Abstractor のコメント

当帰芍薬散と温経湯のクロスオーバー試験であり、前後の2群について無作為に割り付けている。メカニズムとして温経湯のCINC分泌増強作用をあげている。

12. Abstractor and date

小暮敏明 2007.6.15, 2008.4.1, 2013.12.31